

『映画/革命』

足立正生著 (河出書房新社)

「偏向した」「危険な」本かも知れません。その昔 (といってもつい数10年前ですが) こういうことを考え、行動を起こした青年たちがいたということを若い人に知ってもらいたくてあえて推薦しました。映画「赤P」は、私にとってはもう一度見てみたい映画No.1です。

一般教育科教官 出淵 幹郎

『純粹理性批判』

カント著 (岩波文庫)

哲学書というのは、楽しそうだから、面白そうだからなどの理由で手に取る人が限りなく少ないものの一つだと思う。だから、ここで楽しいので読んでみてくださいといはとてもいいづらい。ただ二律背反のような有名な部分もあるので、気が向いた方、もしくは気がふれた方は読んでほしい。

1年1組 田島 武

『理系白書-この国を静かに支える人々-』

毎日新聞科学環境部著 (講談社)

日本では、理系の人とは文系の人と比較して恵まれていないとよく言われる。これは、理系のハードワークに比して待遇が悪いということか?しかし副題にあるように、本書は寡黙な理系人に対する静かなる応援歌である。文系への恨み節なしで読んで欲しい。

制御情報工学科教官 由良 諭

『石ノ目』

乙一著 (集英社)

この本はカバーだけを見ると少し怖い感じがしますがそんなことはありません。4編の話がありますがどの話も最後には少し切なくなるような気分になる話ばかりです。特に「BLUE」は私のおすすめです。少し厚めだけぜひ読んでみてください。

3年S組 富家 さやか

『戦場のピアニスト』

ウラジスワフ・シュピルマン著/佐藤泰一訳 (春秋社)

著者の目線で冷静に自分の身の回りで起こっていることが淡々と語られている。どちらの側に立とうが徐々に人々を狂わせて行く戦争のようすが…。そこから戦争というものの中で起こる実態がどのようなものであるか感じ取ってほしい。そして、今世界で起こっていることを冷静に考えよう。さらに、どのようにすればこのようなことが避けられるか考えていこう。

電気情報工学科教官 鹿間 共一

『零戦の誕生』

森史朗著 (光人社)

十二試艦戦-これは零戦が制式採用される前の呼び名です。日中戦争の苦戦を打開すべくこの機体には、高い性能要求が課せられた。この本には零戦が完成するまでの様子と当時の戦況が克明に描かれ、零戦の鮮烈なデビューは技術力の重要性を痛感させられる程。一度、読んで見て欲しい。

4年S組 柴田 文明

『技術英文の読み方・訳し方』

佐藤佑子著 (オーム社)

英文解読のための急所を押さえた良書。平岡研究室の専攻科輪講で解説している内容を網羅している。目から鱗の花◎・イチ押し! 技術英作文にも、そのまま応用できるヨ。次のステップは、「技術英文の正しい書き方、佐藤洋一著、オーム社」かな?

制御情報工学科教官 平岡 延章

『実習 新しい電気基礎①』

(オーム社)

この本は、読んで字のごとく電気基礎を実習でやっつけてしまおうという本である。第一印象として、図を多用し、目に見えない電気を出来るだけ理解してもらおうという工夫がうかがえる所がある。なお、現在新着図書には②の方もあるので併せて読んでもいい。これで1500円がタダなのは安い。

1年2組 中川 裕介

『ブッタとシッタカブッタ(1)、(2)、(3)』

小泉吉宏著 (メディアファクトリー)

カイカブッタやイイコブッタを見て、笑ってみよう。悩み多き人生、視点を変えてハッピーに生きるのも良きかな。人と比較して、周りの評価を気にして幸せかい?自分自身の絶対的価値観を持ち、自分に厳しく生きる快感を知ろうヨ。結果は後から付いて来るものサ!!

制御情報工学科教官 平岡 延章

『月のしずく』

浅田次郎著 (文藝春秋社)

映画「鉄道員」の原作者、浅田次郎の短編集。この本に出てくる人間は、ぱっとしない人ばかりです。けれども皆、人に対して優しい人ばかりです。話の結末はハッピーエンドばかりでもないけれど、人の優しさが欲しい人はぜひ読んでみて下さい。

5年E組 清 秀樹



から

●図書館に新しく入れた本

